

附 録

學術談話會總會記事

大 正四年二月二十七日午後一時より講堂に於て學
術談話會總會を開く其「プログラム」は次の如し。

開會の辭

講 話

一 家事及裁縫科に於ける最近の進歩

技一、四 吉 田 さ く

我國に於ける圖畫教育の進歩

技二、四 吉 田 つ や

二 報告其一

文一、四 宮 崎 勝 技

報告其二

文二、四 窪 田 け い

三 最近に於ける物理の進歩

理一、四 福 島 ひ さ を

最近に於ける化學の進歩

理一、四 神 林 甫

四 裁縫科と他學科との連絡

養成所 西村なすの

會長の御話

以 上

注意 來學年の後半期内に第二回學術談話會總會を開

く。依て新に四年級となられたる諸子は、例により指導教
官に就いて講演の準備をせられよ。學課の範圍は未定
なれども、今年は恐く數學及び動植物なるべし。

大正三年に於ける文科に關する學術進歩の大勢

(第一回學術談話會席上報告「其一」)

文一、四 { 水 谷 年 惠
 { 水 倉 千 年
 { 富 崎 勝 枝

世 界は今舊文明より新文明に目覺めんとす。歐洲
の戰亂は恰も曉の鐘の如く舊文明の暗の空氣を振はし
つつ今や希望と歡喜の黎明に移らんとしつつあり。

實に大正三年は外世界歴史上に未だ見ざる世界的變
動の年なりき。内我が國民の思想及生活の上には黒雲
掩へる諒闇の年なりき。而して實に國民的及世界的影
響を最も顯著に且つ痛切に感觸せる年なりしなり。思
ふに大正三年は世界及我國民生活の將來に於て一大回
轉期として注目すべき深意を藏する時期たるべし。こ
こに大正三年に於ける我が文科に關する學術進歩の大
勢を報告するにあたり、測らずもこの主要なる問題に逢
著せるは最も光榮とする處なり。

大正三年に於ける我が國、思想、言語、文學に關する大勢